

## ヨハネによる福音書16章 「世における患難」

### 1A もうひとりの助け主の到来 1-15

1B ユダヤ人による迫害 1-4a

2B 世に誤りを認めさせる方 4b-11

3B 真理に導かれる御霊 12-15

### 2A 再び会うイエス 16-33

1B 喜びに変わる悲しみ 16-22

2B 御父にかなえられる願い 23-28

3B 散らされる弟子たち 29-33

## 本文

ヨハネによる福音書 16 章を開いてください。イエス様と弟子たちは今、ゲッセマネの園に動いています。主はこれからすぐに、ご自身がなくなることを弟子たちに伝えておられました。そして、よみがえるも、天に昇られてご自分の父のところに戻ることも語っておられました。その中で、弟子たちが世から憎まれることをお語りになったのです。イエス様が、世の光として来られて、その光のところに来る人たちもいますが、自分の闇を愛して光のところに来ようとしない人たちもいます。闇が明らかにされることを恐れて、救い主であるイエス様を拒むのですが、その憎しみが、イエス様のもんとされている弟子たち、イエス様を宣べ伝えている彼らに向けられることを知っておられました。特に、ユダヤ人の宗教指導者が、イエス様のことば、そのわざを見たのにも関わらず、はっきりと故意に拒み、弟子たちを迫害します。イエス様はその続きを語られます。

### 1A もうひとりの助け主の到来 1-15

1B ユダヤ人による迫害 1-4a

1 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまずくことのないためです。

弟子たちは、もし何も知らされていないならば、自分たちがそこまで激しく憎まれること、迫害されることが想像を超えてしまうことだったでしょう。イスラエルのメシアが来られ、イスラエルを救う方なので、ユダヤ人の宗教指導者がこの方を受け入れ、ひれ伏すことは、当然期待できることです。また、ユダヤ人は自分たちの同胞です、仲間です。同じ父祖アブラハムを持っています。その彼らが、ゆえもなく迫害するなど考えつきもしないことです。

こういった時に、「つまずき」が起こります。落胆して、失望して、そして神に対する疑いも生じることでしょう。イエス様に対する信仰から離れることはなかったとしても、それは人々には話さないで隠しておこうとすることでしょう。事実、そのようなことがユダヤ人の信者たちの間で起こっていました。ヘブル人への手紙が、それを背景としたものです。イエスを告白することなく、ユダヤ人共同

体の中に埋没することを選んだ人々が出てきた中で、イエスこそが希望の源であることを励まし、立ち返らせようとして、著者はその手紙を書きました。ですから、これらのことに心備えするために、イエス様は前もってお語りになります。

2 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。実際、あなたがたを殺す者がみな、自分は神に奉仕していると思う時が来ます。

「会堂から追放する」というのは、単にユダヤ教の会堂という物理的な建物から追放されることを意味していません。元生まれつきの盲人が、その大胆な告白のゆえに追放されましたが、両親は恐れましたね。ユダヤ人の共同体から追放されることであり、それは生活ができなくなること、また霊的には救いを失うぐらいの重みをもっていました。これが、初代教会で起こってきました。イエスを主とする人々が集まる教会は、家の中でも礼拝をささげましたが、会堂でもささげていました。会堂は、誰か一人のものではなく、ちょうど公のコミュニティーセンターのようなものでした。人々の共同生活には欠かせないものだったのです。そして、「あなたがたを殺す者」と言われていますが、使徒の働きには、7章でステパノが石打を受けて殉教しています。12章でヤコブがヘロデによって殺されています。そして9章には、キリスト者を捕縛して、殺していったサウロの姿が出てきます。

ここで、「自分は神に奉仕していると思う時が来ます」とありますね。まさにサウロ、後のパウロは、そう考えていました。律法に非常に熱心であり、この異端については滅ぼさなければいけないという熱意をもってキリスト者を迫害していたのです。回心した後のパウロは、自ら迫害者だったので、その理由がよく分かっていました。こう言っています。「ロマ 10:2-3 私は、彼らが神に対して熱心であることを証しますが、その熱心は知識に基づくものではありません。彼らは神の義を知らずに、自らの義を立てようとして、神の義に従わなかったのです。」熱心さが知識に基づくものではありませんでした。自分の義を立てようとして、神の義を立てるものではなかったとのこと。教会の歴史を通じて、迫害はその多くが、宗教的に熱心な人たちから来ます。

3 彼らがそういうことを行うのは、父もわたしも知らないからです。

このことについて、何度となくイエス様は語られていますが、驚くべきことです。あれだけ律法に熱心で、神を敬い、神に祈っている人であっても、父である神を知らないのです。そして父と一つであるイエス様を知らないからです。宗教的な行いや知識が、その人が神とイエスを知っているかどうかの測りには必ずしもなりません。その人の行いに、知っているかどうかの方が明らかにされます。

4 これらのことをあなたがたに話したのは、その時が来たとき、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。

弟子たちは、イエス様が前もって語られたことが起こっていると理解して、これも主の中では織り

込み済みであって、だから、その御心に従うという準備ができます。イエス様は弟子たちに配慮されて、たった今は理解できないし、忘れてしまうだろうと思っておられました。今、話されたのは、その時に思い出すことができるためです。

## 2B 世に誤りを認めさせる方 4b-11

4b わたしは初めからこれらのことを話すことはしませんでした。それはあなたがたとともにいたからです。5 しかし今、わたしは、わたしを遣わされた方のもとに行こうとしています。けれども、あなたがたのうちだれも、『どこに行くのですか』と尋ねません。6 むしろ、わたしがこれらのことを話したため、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

先に弟子たちは、何度となく「どこに行くのですか」と聞いていました。けれども、主が語られていく中で、その顔の表情に悲しみが漂っていたのでしょう。涙を流していたかもしれません。

7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

前にイエス様は、「14:28 わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを、あなたがたは喜ぶはずです。」と言われました。ご自分の父のところに戻れるのですから、喜ぶはずだと。ここでは、「あなたがたの益になる」と言われています。ご自分の益だけでなく、あなたがたの益になると言われます。地上におられたイエス様が彼らから去るのに、それがなぜ益になるのか？助け主が来られるからだということです。天におられる父に願って、それで、ご自分と同じ性質を持っておられる助け主、聖霊を遣わすことができます。

イエス様が地上におられたら、肉体を持つ人であられましたから、一度にいろいろなところにいることはできません。しかし、助け主が来られたら、主は一度にすべての人のところにいることができになります。しかも、内に住まわれるので、父なる神も主イエスも住んでくださるのです。そして今、世があなた方を憎むと言われたので、助け主が世に対して行ってくださる働きをご紹介します。

8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかにします。9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。10 義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

午前礼拝でお話ししましたように、世に対しては、聖霊は誤りを明らかにする働きをしてくださいます。その中心は、十字架につけられたキリストです。罪については、その罪の赦しを信じて受け入れない罪です。義については、その十字架に示されたキリストの義、またこの方の生涯全体で

示された義です。そして裁きについてとは、悪魔がキリストの死によって、その力を失ってしまった裁きです。このようにして、主が聖霊によって、ご自身を明らかにしてください。パウロはコリントの人たちに、「1 コリ2:2 十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心した」と言いました。そして、こう言いました、「2:4 私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるのではなく、御霊と御力の現れによるものでした。」世が誤っているのは、当たり前のことです。神を知らないからです。それを自分の力や知恵で明らかにするのではなく、聖霊がそれを行ってくださるといふ確信が必要です。

### 3B 真理に導かれる御霊 12-15

12 あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません。

イエス様は、弟子たちの受け入れる力に配慮しておられます。先の迫害を受けるということだけでも、お腹いっぱいになってしまったのだと思います。私たちがそういうことはないでしょうか？もし、クリスチャンになって何年もたって起こった出来事を、クリスチャンになる時に神様から知らされていたら、泡を吹いて倒れてしまうかもしれませんね。その知識でつまずいてしまいます。

13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。

御霊のなさる、大きな働きの一つをイエス様は伝えられました。福音書の中では、心が鈍いというか、理解力が足りない弟子たちの姿を見ますが、しかし聖霊が与えられた後の使徒たちの姿は、まるで違います。ここに書かれている、「すべての真理に導いてくださいます」ということを聖霊がしてくださっているからです。それゆえ、私たちは今、新約聖書を手にしています。旧約聖書に書かれていたこと、キリストご自身が語られたこと、それらについての真理が使徒たちに、聖霊によって説き明かされたのです。そして私たちが、旧約聖書だけでなく、新約聖書が聖霊によって書かれたものだと確信することができます。

そして聖霊ご自身も、イエス様が父から聞いて語られたように、主から、また父なる神から聞いたことを語られます。思い出してください、イエス様は何度となく、ご自身のことばがご自身のものではなく、遣わした方のものであることを話されました。「ヨハ 14:10・・・わたしがあなたがたに言うことばは、自分から話しているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざを行っておられるのです。」父から語られたものをイエス様が語られ、そしてイエス様と父が語っておられることを、今は聖霊が弟子たちに語られるのです。

それから聖霊は、「これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます」とあります。これまで起こったことを解き明かされるだけでなく、これから起こることも伝えてくださいます。使徒たちは、

終わりの日に起こることを明快に語っていきました。パウロ、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、ユダも、そして福音書の著者もみな、将来のことについてその手紙の中で語っていきました。それらもみな、聖霊によるものであり、神のことばそのものです。

14 御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるので

す。

これは、御言葉の時と同じです。イエス様は何度も何度も、ご自身によって父の栄光があらわされることを話しました。「6:38 わたしが天から下って来たのは、自分の思いを行うためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行うためです。」そして今度は、御霊がイエス様のものを受けて伝えるので、イエス様の栄光が現れます。御霊について、私たちが御霊ご本人をほめたたえることが少ないのは、そのためです。聖霊さま、あなたは素晴らしいお方です！とは言わないで、イエス様は、あなたは素晴らしいお方です！と叫びますね。それは、御霊は主にイエス様の栄光を現すからです。ですから、イエス様がほめたたえられ、その御業が明らかにされているところには、御霊が力強く働いているということがいえます。

この言葉がどのように実現しているのかは、使徒たちの働きから見ていくことができます。神殿で足なえの男を立ち上げましたが、「3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。」と話しました。

15 父が持つておられるものはすべて、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに伝えると言ったのです。

イエス様は再び、大体の発言をされています。父のものはすべて、わたしのものだということです。けれども、事実そうなのです。神の御子として、父のものをすべて与えられました。復活したイエス様は弟子たちに、「マタ 28:18 わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」と言われました。それでもって、御霊が、イエス様のものを受けて、そして使徒たちに伝えてくださいます。

私たちも、使徒たちから、主のことばを任されています。そして聖霊によって任されています。パウロがテモテに言いました。「Ⅱテモ 1:13 あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、私から聞いた健全なことばを手本にしなさい。」聖霊に使徒たちが御言葉を与えられ、それを書き記したのとはまるで違いますが、けれども、聖霊によって書かれた聖書の言葉を、聖霊の力によってしっかりと守っていくのです。聖霊が与えられることによって、初めてみことばを解き明かすことができ、また聞く者も理解することができます。

## 2A 再び会うイエス 16-33

### 1B 喜びに変わる悲しみ 16-22

16 しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなります。またしばらくすると、わたしを見ます。」

イエス様は助け主のことを語られましたが、ここでは、ご自身の復活のことを語られています。「またしばらくすると、わたしを見ます」というのは、三日後のことです。

17 そこで、弟子たちのうちのある者たちは互いに言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と言われるのは、どういうことなのだろうか。」18 こうして、彼らは「しばらくすると、と言われるのは何のことだろうか。何を話しておられるのか私たちには分からない」と言った。

先にイエス様は、父のもとに行くと言われたのに、今は、またわたしを見ると言われて、今、いったいどういうことか弟子たちが分からなくなっています。私たちもしばしば、そんなことをしてしまいます。いろいろな事実が与えられ、けれどもどうまとめればよいか分からず混乱し、それで誤った判断をしてしまうことです。それで、ああどうだと議論して、あたかもわかったかのように話してしまいます。

19 イエスは、彼らが何かを尋ねたがっているのに気づいて、彼らに言われた。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』と、わたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。20 まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。

主はこれから、あなたがたが悲しみ、世が喜ぶと言われています。主ご自身が十字架で死なれるのですから、弟子たちには非常な悲しみが来ますが、あの時にユダヤ人指導者を始め、あざ笑った者たちがいました。世は喜びます。けれども、その悲しみは喜びに変わります。そう、主がよみがえられるからです。

21 女は子を産むとき、苦しみます。自分の時が来たからです。しかし、子を産んでしまうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その激しい痛みをもう覚えていません。22 あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会います。そして、あなたがたの心は喜びに満たされます。その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

ここに、私たちに与えられた復活の信仰の極意があります。復活というのですから、初めに死ぬのです。死ななければ、生き返ることができません。生きたままでは復活と呼びません。復活とい

うのは、その前に死というものがあり、死による悲しみ、涙、嘆きがあります。苦しみに対する、新たな希望が与えられるのです。主が苦しみます。それをただ悲しむのではなく、女性が産みの苦しみをするように、通過点にしすぎません。いやその苦しみがあからこそ、その後の喜びは永続するものです。イエス様がここで弟子たちに、「その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません」と言われているとおりです。

私たちの信仰は、罪から来る痛み、苦しみ、嘆きを免れることを約束していません。むしろその反対です。しかし、キリストが死から甦られたように、その苦しみ、痛みがあります。先に世においては、迫害があることを見ました。しかし、なおのこと永続する喜びが与えられるというものです。そして、苦しみに会うからこそその幸いを見出すのです。「イザ 61:3 シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。彼らは、義の樅の木、栄光を現す、【主】の植木と呼ばれる。」私たちが得る喜びは、まずは、罪の悔い改めから来ます。自分というものと対峙して、葛藤し、主の御心に降参する時に、そこで永続的な喜びが与えられます。次に、苦しみがあっても、それでも主がおられるという復活の信仰に支えられています。

## 2B 御父にかなえられる願い 23-28

23 その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。24 今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことがありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。

弟子たちは、ずっと戸惑っていて、イエス様に尋ねていましたが、復活をしたら何も尋ねなくなると言われます。はっきり見えて、しかも、満足しているからです。復活のイエスを見て、心に喜びが満ちるからです。ヨハネ 21 章 12 節に、「弟子たちは、主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねはしなかった。」とあります。

そして再び、弟子たちに祈りの特権を教えておられます。それは、父なる神にそのまま大胆に近づくことです。父に願えば、それが何でも与えてくださるというものです。しかし、それはイエスの名によってです。主の御名によって、すなわちイエス様の願われていること、この方の栄誉のために、これこれをお願いしますという願いは、何でも父が聞いてくださるということです。先ほど言及した、足なえが治った奇跡ですが、ペテロとヨハネはこう言いましたね。「使徒 3:6 ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

25 わたしはこれらのことを、あなたがたにたとえで話しました。もはやたとえで話すのではなく、はっきりと父について伝える時が来ます。

イエス様は、天の御国の奥義の喩えなど、途中から喩えを中心に語られて、弟子たちにそれを解き明かしていくことをしておられました。そういったことをせずに、父についてはっきりと伝える時が来ます。それが、使徒の働き、また使徒たちの手紙です。比喩や暗示ではなく、はっきりと真理が書かれていますね。

26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます。あなたがたに代わってわたしが父に願う、と言うものではありません。27 父ご自身があなたがたを愛しておられるのです。あなたがたがわたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからです。

このようにして、父ご自身のところにイエス様の名によって行き、直接の関係を結ぶことができます。イエス様を愛しているならば、またイエス様が神からの方、御子だと信じているならば、そのイエス様にあって、父は既に私たちの中におられるということです。かつては、祭司がいて、祭司が民の代わりに神の前に出ましたが、今度は私たち自身が霊の祭司であり、イエスの御名によってそのまま父なる神に近づきます。「1 ペテ 2:5 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。」

ですから、私たちが祈る時は、父なる神に祈ります。イエスの御名によって祈ります。イエス様に祈ることはありますが、新約聖書には父なる神に直接行き、イエス様のお名前です。

28 わたしは父のもとから出て、世に来ましたが、再び世を去って、父のもとに行きます。」

主はこうやって、彼らを励まして、世において反対や憎しみがあるが、あなた方は愛されていて、助け主がおり、与えられた喜びは決して消えていくことがないと励まされました。その上で再び、父のもとに行きます、と言われていました。

### 3B 散らされる弟子たち 29-33

29 弟子たちは言った。「本当に、今あなたははっきりとお話くださり、何もたとえでは語られませんが、30 あなたがすべてをご存じであり、だれかがあなたにお尋ねする必要もないことが、今、分かりました。ですから私たちは、あなたが神から来られたことを信じます。」

弟子たちは、分かったように答えていますが、まだ分からないということが難しかったのでしょう。これまで聞いたことをオウム返しのように、そのまま頭でつなげて分かりました、と答えてしまっています。

31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。32 見なさい。その時が来ます。いや、すでに来ています。あなたがたはそれぞれ散らされて自分のところに帰り、わたしを一人残します。しかし、父がわたしとともにおられるので、わたしは一人ではありません。」



イエス様は、彼らが間もなくしてご自身から去って行くことをここで告げられました。弟子たちは、それが目の前に近づいていることに全然気づいていません。彼らは見捨てて逃げ去るのですが、主はひとりだけになります。しかし、「父がわたしとともにおられるので、わたしは一人ではありません。」と言われました。人々が離れて行っても、それでも父が共におられます。その苦しみと孤独はとてつもないものだったでしょう、しかし父がともにおられます。

そして使徒たちも、この臨在を受け継ぎます。一人になってしまった時に、なおのこと主がともにおられることを体験します。パウロがテモテにこのようなことを言いました。「Ⅱテモ 4:16-17a 私の最初の弁明の際、だれも私を支持してくれず、みな私を見捨ててしまいました。どうか、その責任を彼らが負わせられることがありませんように。しかし、主は私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。」仲間でさえ見捨ててしまったのですが、それでもそこに主がおられました。主が、父がともにおられたという経験をしておられますから、同じようにしてパウロと共におられたのです。

33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

力強い励ましです。イエス様は、彼らに平安をご自身にあって与えたいと願われました。その平安は、世から来る苦しみがあっても与えられるところの平安です。だれも奪い去ることのできない平安です。それが、イエス様から来る平安だからです。

そして、「世にあっては苦難があります」と言われました。キリスト者には、苦難がないという約束はありません、むしろあるという約束があります。「Ⅱテモ 3:12 キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」迫害は受けるのです。しかし、神は平安で心と意思を守ってくださいます。

そして、主の力強い勝利があります。「わたしはすでに世に勝ちました。」であります。悪い者が世を支配しています。しかし、主は、その死によって裁きを行われます。ご自身はよみがえり、父のもとに行かれます。世はこの方にひれ伏す時を待たなければいけません。私たちも、この方を信じる信仰によって、世に打ち勝った者です。「Ⅰヨハ 5:4-5 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」